



校長室だより

八代市立八代小学校
校長 村嶋 博史

学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R4,9,7 No,17

「履き物が揃うと心も揃う」

「今日、靴箱の靴がきちんと並んでいたクラスはありませんでした」これは、2学期始まって間もない頃、生活委員会の子供が校内放送で述べた言葉です。

翌日、改善したかなあと、靴箱を見に行くと、ほとんどの子供がきちんと並べていました。素直に改善する八代小の子供は立派だと思いました。

本校では、運営委員会や生活委員会の子供たちが中心になって、「やつしるスピリッツ（あいさつ・ききかた・そろえかた）」を浸透させようと、様々な自治的な活動を展開しています。このように、スクールプライドをもって、八代小をより良くしようとする活動には大変感心しています。今後もこの活動を全教職員でフォローしていきます。

そして、「今日は全てのクラスの靴がきちんと並んでいました」と、生活委員会の子供が校内放送で述べる日を心待ちにしています。



どうして「履き物を揃える」ことが大事なのでしょう？

履き物を揃えることがどうして大事なのかと問われると、「見た目がよくて気持ちがいい」や「履くときに履きやすい」などの声を聞きます。これは事実であり、その通りだと思います。私は、この他にもこんなこともあると思います。「履き物を揃える」という意識が、急いでいるときでも「かかとを揃えて入れよう」という心のブレーキをかける、いわゆる「**気づき**」（それまで見落としていたことや問題点に気づくこと）をもつことにつながると思います。

子供たちが様々なことに気づけるようになると、「友達の変化に気づく」（いじめの未然防止）や「歩行時等の左右確認を怠らない」（交通事故防止）、「好き嫌いせず何でも食べる」（健康の保持増進）、「忘れ物が減る」「話をよく聞く」（学力向上）などができるようになります。

このようなことを考えると、履き物を揃えることをはじめ、よい生活習慣を身につけることは大事なんだなあとつくづく感じます。

ご家庭の玄関やトイレの履き物は揃っていますでしょうか。揃ってましたら、大いに褒めてあげてください。

長野市の円福寺の住職・藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんは、「履き物を揃える」ことについて、こんな言葉を残されています。

はきものをそろえると 心もそろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう

